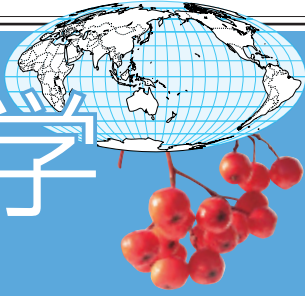


学報

学校法人 北海学園
北海商科大学
商学部〔商学科・観光産業学科〕
アジアの時代に アジアを学ぶ
Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol.35
2023.12.20
発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
地下鉄東豊線「学園前」駅直結
TEL:011-841-1161(代表)
FAX:011-841-0801
https://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

主な記事

2.	後期履修登録・2年所属学科決定	2面
3.	オープンキャンパス開催	2面
4.	新規開講科目・奨学金新制度	2面
5.	高大連携 北海学園札幌高校ゼミ体験	2面
6.	2023,2024のキャリア支援について	3面
7.	就職内定4年生の報告会開催	3面
8.	教員採用試験難関の公民科合格	3面
9.	国際交流について	4面
10.	北海道地区学大生友好訪華団が帰国	4面
11.	外国語スピーチコンテスト・作文コンテストの結果	4面
12.	海外語学留学プログラム 中国・韓国へ出発	5面
13.	留学だより	5面
14.	サークルのいま	5面
15.	「研究のいま」池ノ上真一先生	6面
16.	メーカーを招いたセミナー開催	6面
17.	ゼミ訪問 郭倩ゼミ	6面
18.	多文化関係学会 北海道・東北地区研究会開催	7面
19.	市民公開講座開催	7面
20.	OB・OG NOW!	7面
21.	学生へのメッセージ	8面
22.	新刊紹介	8面
23.	高校生懸賞作文入賞者決定	8面
24.	医務室から「二十代の健康」⑩	8面
25.	行事予定	8面



第16回 北海商科祭が開催される！

テーマ「繋がる、輪になる、カーニバル！」



来場者の参加で盛り上がったステージ企画

北海商科祭実行委員会報告

今年で第16回目を迎えた北海商科祭を無事に開催できたことを北海商科実行委員一同大変嬉しく感じております。

今回のテーマは、「繋がる、輪になる、カーニバル！」です。思わず口ずさみたくなるようなリズム感で、お客様全員が笑顔で賑やかな空間になり、この大学祭を通して皆様と繋がることができたらいいなと願いを込めました。

企画内容といたしましては、お笑いLIVE、アイドルライブ、カラオケ大会などのお客様参加型ステージ、また、軟式野球部や実行委員会による模擬店や縁日、校舎内でのお化け屋敷、軽音サークルによるバンド演奏などがあり、多くの方々に楽しんでいただくことが出来ました。

最後になりましたが、第16回北海商科祭が、ご来場者の皆様楽しんでいただけるような大学祭になったことを、心から感謝申し上げます。



北海商科祭実行委員長
鎌田 新さん
(商学科3年)

第16回北海商科祭が開催されました

去る9月16日（土）に第16回北海商科祭が本学を会場に開催されました。社会生活が正常化に向かうなかで、今年は4年ぶりに入場が地域住民の皆様など学外へ一般開放となったことで、当日は25度を超える残暑にも関わらず、多くの方々の来場がありました。昨年度、様々な制約のもとで3年ぶりの開催となった第15回北海商科祭は、特別な社会状況下で大学祭を開催する意味それ自体を問う取り組みとなりましたが、本年度第16回北海商科祭はコロナ禍を契機とした社会変化を考えながらの通常開催に向け舵を切った試みとなりました。

通常開催に向けた取り組みゆえの新しい課題も次から次へと現れるなど、引き続きコロナ禍前と途絶した情報や限られた時間という制約の影響が残る環境下の開催でしたが、今回は校庭の野外ステージに加えて校舎内の2教室にも会場を設定し、また新たに飲食系模擬店も出店されました。野外ステージ上ではお笑いライブに新たにアイドルライブが加わり、校舎内ではお化け屋敷&宝探しと軽音サークルによるバンド演奏がおこなわれるなど、だれもが企画の拡がりを実感できる大学祭となりました。大学祭の企画・実施に参加した学生・サークルは、数の上ではまだまだ最盛期程には及びませんが、それぞれが学生生活の貴重な体験として心に残る大学祭になったことと思います。（学生支援センター長 村松 祐二）



商科祭実行委員の皆さん



お笑いライブを楽しむ来場者の皆さん

お笑いライブステージ

縁日のヨーヨー

ステージパフォーマンスでの空手

焼そばの模擬店

音楽ライブ

お化け屋敷「恨眼四屋」

「歌うま商科生いらっしやい」のステージ

後期履修登録・ 2年次所属学科決定

2年次所属学科の選考に際しては、5月17日から5月31日まで商学科・観光産業学科各専門教育委員長による学科紹介動画をオンライン公開しました。学科の科目構成や内容、将来の職業等の具体的な説明をして、学科選択の参考情報を提供しました。引き続き5月31日から6月14日までは専門ゼミナールⅠ・Ⅲの紹介動画を公開して、ゼミの内容、目標などを担当教員から説明を行いました。学生は各ゼミの内容、将来の職業などを検討のうえ、6月14日から6月30日までにCoursePowerで志望学科届の提出を行いました。

学科ごとの志望人数は、選考対象学生170名に対して商学科120名、観光産業学科50名が最終的に決定され、8月8日にCoursePowerと学内掲示板に発表しました。

1・2年次生の後期履修登録は、9月14、15日に実施され、3、4年次生の履修登録は9月19、20日、全学生の履修登録訂正は9月21日に、PC教室で行いました。

(教務センター長 中西 良之)



2



9月14日から始まった後期履修登録の様子



オープンキャンパス開催

3



2024年度「データサイエンス・AI論」開講、 新規奨学金を開設

北海商科大学は2024年度から「データサイエンス・AI論」を新規開講します。2024年4月の入学者から1年次の履修科目となります。この授業では、デジタル化社会の特徴や、AIの基本的な仕組みやデータの読み取り方の基礎を学びます。高校まで文系教科を学んだ学生を対象に授業の内容を設計しており、数学やプログラミングそのものを学ぶ授業ではありません。ビジネスの実践力を高めることを目標に、商業や観光産業の現場におけるデータサイエンスやAIの活用事例を学びます。

また2024年度の入学者から、本学独自の入学者選抜成績優秀者奨学金の給付を始めます。一般選抜と大学入学共通テスト利用選抜（Ⅰ期）の合格者のうち、成績優秀者に対して1年次授業料等を全額または半額免除します。一般選抜と共通テスト利用選抜（Ⅰ期）の出願期間は2024年1月4日から同30日、一般選抜の試験日は2月8日（3教科）と2月13日（2教科）です。共通テスト利用選抜は本学の個別試験はありません。

4

2023年度のオープンキャンパス（O.C.）は、昨年度から2回増やして6回実施します。このうち5月、6月、8月、9月の5回は終了し、昨年同期より67人多い375人の高校生と保護者の皆さんが参加しました。本年度は、学生スタッフを中心となって大学を紹介する活動を増やし、来場者から好評でした。例えば学生によるゼミ報告や、来場した高校生に本学の学生が大学生活を紹介する「商科カフェ」などです。新しい試みとしては他に、8月のO.C.ではキッチンカーによる軽食を提供しました。

ゼミ報告は8月5日、6日に実施しました。観光産業学科の池ノ上真一教授のゼミ生が模擬講義に参加し、フィールドワークの結果をパワーポイントを使って紹介しました。同学科の千葉里美准教授のゼミ生は、本学2号館の教室でゼミ紹介のコーナーを運営し、キッチンカーの軽食を高校生に勧めながらゼミの様子を説明していました。

商科カフェは、コロナ禍期間中は休止しましたが、本学1号館の地下学習コーナーに今年から復活しました。スタンプラリーやキャンパスツアーで大学施設の見学を終えた高校生と保護者の方が、商科カフェで在学生と歓談しました。来場者アンケートでは「在校生が親切に説明してくれた」など、学生スタッフによる対応は非常に好評でした。

本年度のO.C.はあと1回、3月に実施します。学生スタッフの皆さんの活躍の場を今後も増やしなが、北海商科大学の魅力をつかりやすく伝える楽しいイベントとして運営していければと考えております。

(入試広報センター 佐藤 千歳)



写真上：軽食を提供するキッチンカー。写真下左：模擬講義を行う池ノ上真一教授とゼミ生。写真下右：中国の伝統衣装の漢服を紹介する企画も行われた



高大連携 北海学園札幌高等学校の生徒を 対象にしたマーケティングゼミ開催

高大連携事業の一環として、北海学園札幌高校の生徒を対象としたマーケティングゼミを開催いたしました。

ゼミは、2023年9月22日から10月6日の間に3回開催し、北海学園札幌高校1年生から3年生までの9名、本学学生のべ9名が参加しました。高校生の視点からより魅力的な大学オリジナルグッズを企画することを目的としました。ゼミでは、マーケティングの基礎を学び、望ましいグッズについて議論し、最終的に議論を踏まえたグッズ案を提案してもらいました。

グッズ案として「勉強の疲れをいやすアイマスク」「大学の国際性をアピールする外国のお菓子詰め合わせ」など、新鮮な視点での提案が出てきました。ゼミに参加した高校生からは「初めてゼミに参加してみて、大学への興味がわいた」「大学生と話すことができよかった」などの感想をいただきました。高校生の大学への理解促進や進学・学習意欲向上につながるような取り組みを今後も継続したいと考えています。（澤内 大輔）



写真上：ゼミの趣旨を説明する澤内准教授。写真下：オリジナルグッズ案について議論し、発表する北海学園札幌高校の生徒

2023、2024 年の キャリア支援について

今年度の就職活動を取り巻く環境の概観をご紹介します。・内定率が過去5か年で最も高い。・求人倍率も過去5か年で最も高く売り手市場にある。・業種によっては、コロナ明けによる景気回復にともない採用枠を拡大する企業が増加傾向にある。・就活ルール（選考解禁・内定解禁などの日程）に大きな変更がなく、従来通りのスケジュールのなかで対策を講じやすい。以上のように、いわゆる新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の現在、就職活動を取り巻く環境は好条件にあるといえます。その一方で、・コロナ禍での講義のオンライン化、部活動やサークル活動の自粛によりこの3年間でなにかに力を注いだ経験が少ない学生が多く、いわゆる「ガクチカ」が乏しい。・5月時点での内々定率が前年同期を上回っている状況を鑑み、早期選考が顕著になっていると推察される。・対面での面接実施を行う企業が増えたため、学生は対面面接、Web面接のいずれの形式の面接にも対策が必要となっている。以上のように、コロナ明けによる新たな局面が顕在化しています。



就職内定4年生の報告会を開催

10月10日・17日の2日間、希望する企業の内定を勝ち取った4年生6名に、就職活動の実体験を語ってもらいました。コロナ禍が明け状況が大きく変化している今、先輩方のナマの声を聞こうと多くの1～3年生が参加。自己分析の進め方や面接対策、授業と両立させる工夫など、これから始まる就職活動の参考となるような話を聞くことができました。



報告会に参加した下級生も熱心に耳を傾け、これからの就職活動に助言を求めています。



岡本 悠花 さん
(商学科4年)
学校法人KTC学園
屋久島おおぞら高等学校

最初は業界が絞れず、ハウスメーカーやインフラなど幅広く受けていて、自己PRの内容も業界によって変えていました。自己分析は何かから手を付けていいのかわからず、支援センターの木村さんに相談に乗っていただきました。これまでやってきたボランティア活動やアルバイトなどについて話し、強みが分析できたので、大人に頼ることも大事だと実感しました。

そして、自分は何がしたいのかじっくり考えて出した結論が教員になること。教育実習と就活の時期が重なり、とくに教育実習が終わってからと、面接が一気に終わったところはモチベーションが下がったのですが、「これでいいのか?」と気持ち奮い立たせて乗り越えました。



青田 夢乃 さん
(観光産業学科4年)
ANA新千歳空港株式会社

空港で働くことが中学生のころからの夢で、航空業界やホテルなどに社受けしました。3年生の秋から韓国へ留学していたため留学中にSPIの勉強や面接の練習をして、ウェブ説明会にも参加していました。航空業界は倍率が高いイメージがあり、ほかの就活生のSNSを見て落ち込むこともありましたが、「グラウンドスタッフになりたい」という初心を忘れないようにしました。

反省点は、エントリーシートをいつも締め切り直前に書いていたこと。早く取り掛かっていればメンタル的に楽だったと思います。でも、就活を理由に授業を休みたくなかったのので、午前中に就活、午後は授業と決めて取り組み、授業と両立させながら夢を叶えることができました。



大屋 琢朗 さん
(商学科4年)
ネットトヨタ道都株式会社

人と話すことが好きなので、最初から営業職を志望していました。自動車業界に決めたのは、企業説明会や、親の車を担当するディーラーの営業の仕事を見て興味を持ったからです。自動車業界の営業職のみに絞り、全部で3社受けました。

就活では、本当に自分が入りたい企業かどうか考えることが重要だと思います。そのためインターンシップでは、人事の人と話すようにしていました。ホームページを見ただけではわからない会社の雰囲気を知ることができるので参考になります。また、親の車の点検について行ってディーラーの人から直接話を聞いたりしました。内部の人に踏み込んで話を聞くことで、より深い企業分析ができたと思います。



木明 錬 さん
(商学科4年)
東海ビジネスサービス株式会社

IT業界を選んだのはプロフィールが面白いところが多いイメージがあり、一つのことを突き詰めるタイプの自分に合っていると思ったからです。また、これから成長する業界だと考えました。経験が求められるシステムエンジニアが、新卒なら未経験からスタートできるというのも魅力でした。20社以上にエントリーし、面接まで進んだのは15社ほど。IT業界は応募締切も内定も早く、3月から5月の2か月間に詰め込んでしまい、余裕がなかったのが反省点です。

自己分析では、アルバイト先の人にとんだ性格が聞くようにして、仕事上での自分の強みを分析するようにしました。面接はオンラインが中心で、授業のない日に入れるなど工夫して対応できました。

そこで、いずれも新しいトピックではありませんが、あらためて対策の強化を図っていただきたい点をここで整理しておきます。就活中の学生のみならず、これから本格的に活動をはじめる在学学生にとりまして有効な情報ですので参考としてください。・自身の「価値観」「強み・弱み」などを客観視するため、自己分析を強化しましょう。・志望する業界の絞り込みや、希望する企業に対する説得力のある志望動機の構築のため、業界研究・企業研究を強化しましょう。・インターンシップの位置づけが大きく変革するなか、インターンシップが事実上の採用選考の場となっている現状をふまえ、インターンシップへ参加する意義や目的を明確にしたうえで、参加の適否を検討しましょう。・最近の採用選考では、面接に加えグループディスカッションを導入する企業が増えている傾向にあるため、模擬面接を行うと良いでしょう。ここで記した内容は、あくまでも、傾向であって、学生すべてにあてはまる状況ではない点に注意を払いながら、学生の皆さんは、身近にあるキャリア支援センターを大いに利用して採用選考に備えてください。

(キャリア支援センター長 伊藤 寛幸)



写真上3枚：3月1～3日に行われた
北海学園大学との合同企業説明会



写真左と左下2枚の写真：就職内定者の
体験報告会。
(司会：キャリア支援センター 木村朱里)



和田 誠徒 さん
(観光産業学科4年)
株式会社アイーナホーム

友達に誘われて参加した合同会社説明会で、たまたま不動産業界の営業の人の話を聞いて「家売るって面白そうだ」と思い、不動産業界に絞り2社受けました。

とくに力を入れたのは自己分析と面接です。友達に自分の性格を聞き、ウェブの性格診断もやりました。その中で、自分にとってやりがいとはなにかを考えられるようになり、それを生かせる企業を選ぶと思うようになりました。面接は、支援センターの木村さんのところに行きまくって練習し、質問に的確に答えられるよう徹底的に指導していただきました。自己肯定感を持って面接に臨めたのはそのおかげです。就活には行動力と勢いも大事。自信を持って挑むことがコツだと思います。



木野 桃花 さん
(商学科4年)
日本アクセス北海道株式会社

就活は3年生の2月から始めていましたが、3月まで業界はまったく決まっていませんでした。食品業界を選んだ決め手は、合同会社説明会に参加して話を聞く中で、「いいな」と思ったところは食品業界が多いと気づいたからです。全部で14社受けました。4月中旬に初内定が出て、気持ちが高まりました。「ここで決めようかな」とも思いましたが、本命の企業があったので6月まで頑張り、内定をもらうことができました。

面接では、「多くの食品業界の企業の中で、なぜうちを選んだのか」と聞かれるので、ホームページを見てその企業の特徴や強みを頭に入れて臨みました。また、たくさん面接の練習をして緊張しないようにしておくことが大事だと感じました。



教員採用試験

難関の公民科に現役合格

本年度北海道公立学校教員採用試験において、商学科4年の河野永遠さんが高校公民科教員に合格しました。合格者218名のうち公民科採用は7名の狭き門です。

河野さんは北海学園札幌高校在学時に、担任や各教科の先生、所属していた陸上ホッケー部の先生から影響を受け、その一言一言が生徒に大きな力を与えてくれる教師という仕事に憧れるようになりました。特に2・3年生の時の担任が公民科の先生で、公民科への興味や面白さを、自身も教員となって教えることを目標としました。そのため、教職課程で高校公民科が選択できる本学を志望し入学、1年次から教職課程を受講しました。

母校での教育実習では憧れの元担任が指導担当となり、実践経験を積んだ方が良かったと、2週間の教育実習の2日目から毎日のように授業を行わせてもらうなど、多くの経験を得たそうです。1年半かけて採用試験勉強をし、同じく教職課程を受ける友人と休み期間中も大学で教室を借りて勉強。また、人と話すことが苦手でしたが、少人数教育で教員との距離が近い本学の利点を生かし、コミュニケーション能力をあげるなど、やりたいことや就きたい仕事のために頑張ってきました。

9月の合格を受け、もちろん採用希望を出した河野さん。憧れた高校時代の先生方のように「生徒達から目標とされる仕事や生き方をしたい」と語ってくれました。



河野 永遠 さん
(商学科4年)

国際交流について

本記事では、中国・韓国への交換留学生派遣やカナダ・レスブリッジ大学からの短期留学生受入などをお知らせいたします。

6月2日にカナダを発ち6月5日に来札したレスブリッジ大学よりの受入学生9名のみなさんは、各ホストファミリー宅へのホームステイを開始し、翌日のオリエンテーション・歓迎昼食会を経て、6月7日から6月21日まで週末を除きほぼ毎日「日本語研修」・「日本学研修」の講義を受講しました。日程の途中にはいくつものイベント、すなわち6月20日の市内近郊日帰り研修、6月16日～17日の函館一泊研修旅行、6月10日のYOSAKOIソーラン祭り見学を挟み、6月22日の修了式とその後の札幌ガーデンパレスでの送別会の翌日6月23日にカナダへ帰国の途につきレスブリッジに無事到着いたしました。

大田大学校派遣の1年次学生10名は8月31日に出発し、その後約一週間に渡り水野教授が引率しました。派遣時毎回恒例の諸活動である、宿舍割り、各種歓迎会、近隣の案内等の後には、早々と授業が開始され、無事に修学・研修に就きはじめました。ある食事会では、母校である大田大学校に勤務する日本語学科カン・ヨンハ学科長が、学生時代に北海学園北見大学へ一年間留学した経験をお持ちであることがわかり、当のカン・ヨンハ学科長に主催して頂くというご縁にも恵まれています。

煙台大学派遣の本学学生5名は9月2日に移動を開始し、その後約一週間に渡り蘇林教授が引率しました。数年ぶりの派遣・訪問でしたが、すでに20年ほど続く本学との交流をさらに深める出来事もありました。煙台大学宋学長自ら本学派遣学生のため豪華な食事会を催され、盛大な歓迎ぶりを示されたことは、煙台大学外国人留学生としては前例のないことです。また、煙台大学に再度在学中の本学卒業生が今次派遣学生を歓待してくれました。これは今後の派遣学生にとっても心強いサポート役を得たものといえます。在日中国領事館主催の「北海道地区大学生訪華団」（9月12日～9月19日）が、北海学園大学と合同で、本学の堂徳学長を団長として催行されましたが、その事前調整を円滑に遂行することもできました。（国際交流センター長 原子 智樹）



写真上：協定校のカナダレスブリッジ大学短期留学生修了式、写真右上下：中国煙台大学、韓国大田大学校



9

訪 北海道地区大学生友好華団が無事に帰国

堂徳将人学長を「北海道地区大学生友好訪華団」の団長として、本学と北海学園大学の学生各9名、引率教員各1名の合計21名が、9月12日から19日の日程で、山東省（煙台、威海、済南）及び北京を訪問し、本学の協定校である各大学での交流などを通して相互理解を深めました。

百聞は一見に如かず。2023年は日中平和友好条約が締結され45周年になります。在札幌中国領事館は、この節目を記念し、日中両国の未来を担う青年の交流を促進し、相互の理解と友好を深め、中国の文化、経済及び社会の現状を理解する目的で「北海道地区大学生友好訪華団」を派遣することを企画していただきました。この企画により、本学と学園大の学生を派遣することができました。堂徳学長と協定校の学長は、双方の18年間の友好交流を振り返るとともに、将来を展望した会談を行いました。学生は、山東大学の「中華伝統文化研究と体験基地」にて、中国の伝統服飾・礼儀文化・碑拓芸術・伝統楽器などを体験しながら、文化の「知行合一」を経験することができました。



写真左上：煙台大学宋中民副学長と会談交流
写真右上：山東大学副学長・山東大学威海校劉建亜学長と会談。写真下2枚：山東大学国際教育学院徐希鋒書記、馬曉樂院長との交流



10



11

■外国語スピーチ・作文コンテストの結果■

2023韓日交流作文コンテストにて 本学の学生3人が入賞しました！

今年も駐日本国大韓民国大使館韓国文化院・東京韓国教育院が主催する「2023韓日交流作文コンテスト」が開かれました。本大会は、未来世代を担う両国の子供から一般の方まで幅広い人々を対象にしています。互いへの思いを伝えあい、新しい「絆」作りのため、エッセイ、川柳・俳句、韓国旅行記を募集していました。韓国語の部門は、「外国語としての韓国語」を学習している日本在住の方を対象にしていますが、その結果発表が9月8日にありました。日本全国各地から4,369作の応募があり、過去最多記録を更新したようですが、その中で本学の学生3人が見事に入選として選ばれました。

韓国語エッセイ一般部門で、新屋敷詩乃さん（2年生）が子供の時から好きだったK-POPに対する思いと自分の体験、レアな出来事を優れた表現力で作文し、入賞を果たしました。また、石田幸平さん（2年生）が韓国語川柳・俳句部門で、韓国の食の魅力を日本人独特の観点から「5・7・5」の川柳・俳句で作文し、賞を受けました。最後に、桑原涼華さん（3年生）が韓国語韓国旅行記部門で、昨年、大田大学校留学の時に経験した韓国国内旅行に関する内容を読者の心に残る内容、読み応えのある韓国語文章にして、賞をいただきました。

なお、道内の大学での受賞者は4名となりましたが、そのうちの3人が本学からです。改めておめでとうございます。来年も本学の韓国語科目履修者の皆さんのたくさんの応募を応援したいと思います。（李 鳳）



賞状を手にする桑原涼華さん（写真左）と新屋敷詩乃さん。中央は李鳳先生

第22回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト日本予選 決戦・第4回全日本大学生中国語スピーチコンテストに入賞

第22回「漢語橋」世界大学生中国語コンテスト日本予選決戦・第4回全日本大学生中国語スピーチコンテストが6月24日、東京の慶応義塾大学で開催されました。

今回の大会の演題である「天下一家（One World, One Family）」を巡って、日本全国4つの予選ブロックで勝ち抜いた20名の選手が自らの経験と結び付けて、自分の思いを中国語でスピーチしました。世界的な大会の予選であり、全国の大学生が中国語スピーチのみならず、中国の知識に関するクイズ、中国文化技芸を含めた3分野で競い合いました。

本学から観光産業学科4年生の池上歩実さんが、東北・北海道ブロック（東北地方、北海道、長野・信越地方）の代表として出場しました。今回の大会は、池上さんにとって「漢語橋」日本予選決戦への二度目のチャレンジでした。彼女は予選の「天下一家—来自WBC的感动（天下一家—WBCによる感動）」の構成や表現を、より豊かで練りなおして、素晴らしいスピーチを行いました。また、書道のパフォーマンスを披露して、見事に優秀賞を獲得しました。

今回のコンテストに参加した選手たちの中国語のレベルは過去の大会に比べ明らかに高水準であると評点委員が語りました。今後、北海商科大学の中国語履修者が優れる成績を獲得するには、普段の学習においてもより頑張らなければなりません。

なお、この場を借りて、今回熱心に出場者を指導して下さった中国人交換留学生の皆さんに、心より厚くお礼申し上げます。また、今年積極的にスピーチコンテストに参加した学生たちに敬意を表したいと思います。皆さん、お疲れ様でした。また、来年健闘しましょう。（劉 玗）



写真：優秀賞を獲得した池上さんのスピーチ

海外語学留学プログラム 中国・韓国へ出発

去る8月31日、大田大学校派遣短期留学プログラムに参加する本学の一年次生10名（女子8名・男子2名）が千歳空港から韓国の協定校・大田大学校に向けて出発しました。コロナ禍も収まり、今年は千歳空港からの直行便でソウル（仁川）に向かうことができました。仁川空港からはバスで大田市にある大田大学校に移動しました。今年は例年に比べて出発が遅く、現地到着直後から2学期が始まることになり、忙しい日程をこなすことになりました。到着した翌日（9月1日）に大田大学校国際交流院主催の歓迎式があり、そこで本学学生の片岡未来さんが韓国語で答辞を述べました。同じ日に、韓国語のレベルテストがあり、各自の韓国語の能力に応じたクラスに振り分けられることになりました。本格的な授業が始まったのは9月4日からでしたが、その日まで、市内のダイソーや大型ショッピングモールで生活用品や電気製品の買い出しを行い、封切られたばかりの韓国映画を鑑賞し、上級生を交えてサムギョプサル（豚の三枚肉の焼肉）を食べるなどして授業開始に備えました。

今年からは本学から派遣された学生は、大田大学校の「ビジネス日本語学科」の所属になることになり、この学科のサポートを受けられるようになったことも例年とは違った点でした。ビジネス日本語学科が設けてくれた歓迎会では日本語が話せるビジネス日本語学科の皆さんと交流する機会も設けられ、心強い留学のスタートとなりました。今後、10人の学生は来年の1月までの5か月間、大田大学校で勉学に励むことになります。

（水野 俊平）



写真左から：韓国・仁川空港に無事到着。大学付近にある村の守り神「チャンスン」の前で記念撮影

正常な交際交流事業は、2020年から世界範囲で大流行したコロナ禍により難航しています。本学もその影響を受け、毎年、中国の協定校に多く一年生を派遣する事業も、やむをえず中止となっていました。今年の9月2日、4年ぶりにやっと5名の学生が、中国・煙台大学での留学に向けて出発することができるようになりました。

中国には「風調雨順、年登歳稔」、すべての事が上手く運び、実りある年になるようにと、祝福で使う言葉があります。北京に到着した頃、大雨でした。学生たちがこの甘雨に潤い、この先の留学生活が順調、かつ豊かな収穫があるような兆候ではないかと思いました。

到着当日、学生たちはやや緊張して疲れている様子を見せていましたが、ホテル中のレストランで中華料理を食べ休養することができました。また、煙台大学では、再び煙台大学に留学している本学の卒業生である秋吉さんが出迎えて下さいました。後輩たちにとっては、心強い先輩のおかげで、不安なく留学できると思います。さらに、煙台大学に到着した翌日には、宋中民副学長が、特別に本学の学生だけを食事に招待して下さいました。留学生が多くいる煙台大学では、副学長から留学生を食事に招待したのは、初めてのことだったと聞きました。

9月20日、煙台大学は2023年度新留学生の入学式が行われ、14カ国から来た留学生が式典に参加し、宋中民副学長から、「留学生たちは、よく歴史的チャンスをつかみ、中華の伝統文化を全面的に深く感知し、学生間で友好交流と協力を強化し、相互に信頼と友情を増進し、世界平和と各国の協力発展に貢献し、自分の人生の価値を実現するように」と、激励のメッセージをいただきました。また、煙台大学では「中華伝統文化を感知する月」のイベントが開催され、留学生は東山ホテルにおいて中秋節で食べる月餅を作り、それを食べるなど、早速、中国伝統文化の魅力を体験しました。（蘇 林）



写真上、下左：14カ国から来た留学生が参加した入学式。
写真下右：「中華伝統文化の体験月間」のイベントで月餅づくりを体験

留学だより

観光産業学科3年 伊藤 空流 韓国・大田大学校

私たち3・4年生は、コロナで1年生の頃の留学プログラムが無かった学年です。例年の先輩方のように過ごすことができるのか、期待と不安が大きかったように感じます。

私たちが韓国にきた春からコロナによる様々な規制が緩和され、できることが増えました。日本からの旅行者も増える中で、私たちは「留学でしかできない体験」を大切に過ごしています。

例えば日本からの旅行ではあまり選ばないような地方に遊びに行ってみたり、日本人以外の学生と積極的に交流をしています。特に日本語学科のみんなはバディ活動や行事を通して距離が縮まり、日本の文化への関心が高く刺激をもらうことが多いです。

韓国語の上達だけではなく、教科書やSNSの情報だけでは分からない韓国のリアルな姿を直接見聞きできるところが留学のよいところだと実感しています。

少しずつ帰国の時期が近づいていますが、最後まで4人で元気に楽しい思い出を作って帰りたいです。



写真左から：ソウルのテーマパーク「ロッテワールド」。南海岸の統営という海辺の街。大田大学校ビジネス日本語学科の新入生歓迎会

観光産業学科3年 平尾 菜奈美 中国・煙台大学

私は現在交換留学生として半年間烟台大学に留学しています。

毎日が本当に充実していて、今までに感じたことがないほど時間が過ぎるのが早いです。

留学にきた当初は、授業についていっただけで精一杯でしたが、一か月後には授業中に先生に質問することができたり、他の国の留学生たちと楽しく会話したりすることができるようになりました。

また、私はほぼ毎日のように授業終わりや休みの日にバスケットコートに遊びに行っています。そこで仲良くなった中国人の友達たちと一緒に遊びに行ったり、ご飯を食べに行ったりすることで実際に会話をする機会をたくさん増やしています。最近ではバスケットで知り合った友達と一緒に中国映画を見に行きました。映画の内容も理解することができ、自分の成長を日々実感することができてとても嬉しいです。

引き続き貴重な残りの留学生生活が無駄にしないよう、毎日を大切に過ごしていきたいと思っています。



写真左から：タ
方
の
煙
台
大
学
校
舎。
現
地
の
中
国
人
学
生
と
韓
国
人
留
学
生
と
み
ん
な
で
バ
ス
ケ
ッ
ト
を
し
た
時
の
写
真

サークルのいま

こんにちは。サークル連合執行部の山野川翔真(商学科4年、軟式野球部)です。今年度新たに立ち上がった空手同好会とボードゲーム同好会をインタビュー形式で紹介します。

山野川（以下、山）：空手同好会を立ち上げたきっかけは何ですか？

河合（以下、河）：空手のインカレ大会に出場するためには、大学のサークルや同好会に所属していることが要件となっていたので、大会に出場するため同好会を立ち上げた。

山：今後の目標などありますか？

河：個人としては、インカレ4連覇を最低限の目標としたい。同好会では、団体としてインカレでの入賞を目指したい。

山：最後に一言お願いします。

河：初心者が参加できる大会もある。また、サポートメンバーとして参加してもらえるだけでも助かるので、気軽に連絡をしてほしい。

山：ボードゲーム同好会を立ち上げたきっかけは何ですか？

本保（以下、本）：誰でも手軽に楽しめるサークルを作れないかと考え立ち上げた。

山：活動の目標などありますか？

本：来年の北海道ボドゲ博（自作ボードゲームの頒布・発表会）に出展したいと考えている。

小川（以下、小）：様々な人に参加してもらって情報交換をしていきたい。

山：最後に一言お願いします。

本：学生生活を豊かにするような活動をしていきたい。

小：堅苦しくなく、和気あいあいと活動したいので、ぜひ参加してほしい。

山：私が所属する軟式野球部は、今年、北海道地区大学軟式野球連盟の2部リーグへの昇格が決まりました。ただ、現在主力の4年生部員が卒業してしまうため、次期部員を募集しています。経験者もそうでない人も、選手でもマネージャーでも参加してもらえると嬉しいです。

写真下左：左からサークル連合執行部の山野川翔真さん、ボードゲーム同好会の小川優姫奈さんと代表・本保拓真さん(ともに商学科2年)、空手同好会の河合透吾さん(商学科2年)。写真下右：北海商科祭での河合さん



研究のいま ●池ノ上 真一 教授

1. 地域マネジメントとPPP

近年、人口減少とグローバル化、気候変動といった環境変化が、私たちの暮らしのベースである地域を大きく揺るがしています。縮小社会、保守化、対立や孤立、そして空間のスポンジ化など様々な問題が起きています。極端な話しをすると、地域としての存続の可否を問うぐらいの状況です。環境変化に対応出来ない要因の一つが「市場の失敗」と「政府の失敗」にあると言われています。その突破口として注目されるのが、公民（官民）連携、PPP（Public Private Partnership）と呼ばれる動きです。

2. まちづくりの現場での実証的研究

そこで私は、実際のまちづくりの現場で実証的に取り組み、地域マネジメントに関する研究を行っています。主なプロジェクトとしては、函館での旧市街再生プロジェクトや札幌創成東地区での「ファスト風土」化阻止プロジェクト等があります。双方共に、三浦展氏が提言する「愛される街」を目標としています。函館では、高齢化、人口減少が進み、従来の卸売業、商業が衰退し、不動産の価値が下落しています。そのため、起業や住居目的で空き家・空き地を活用しようとしても、金融機関の融資を受けることも困難なため、地域の価値を高める取り組みが生まれにくくなっています。他方、札幌では、北海道新幹線延伸に伴う駅前開発等に伴い、開発会社は挙ってマンションばかりを建て個性のない街、つまり「ファスト風土」化が進行しています。しかし創成東地区は、北海道開拓における最先端の農業・工業の試験場的な役割を果たした地区で、今もサッポロビールをはじめ、食品加工に関わる企業や関連する店舗が残ります。また二条市場をはじめ人間味溢れる都市空間も残っており、インスタ映えする个性的で地場のカフェや飲食店なども少なくあり



学生が創成東地区のカフェにて地元の中心人物からまちづくりを学び中



北海道まちづくり研究会にて日本ハムファイターズ職員が議論成果を発表

ません。ただ、このまま開発が進むと、それらも開発により失われることが危惧されます。さらに、マンションの隙間には、ファストフード店やコンビニなどが入り込み「ファスト風土」化することが容易に想像できます。

函館も札幌も状況は違いますが、経済的な論理が都市のあり方で優先され続けた結果、人が住み続けたい、訪れたいと思わない街になりそうです。それをPPPで食い止めるためには、具体的にどのような手法が良いか、実践をとおり検証しています。

3. 明日の北海道のための知のコモンズ

実証だけでは研究として一般化が困難です。そこで明日の北海道のあり方を検討するため、共同研究会「北海道まちづくり研究会」を主宰しています。そこでは、本学の千葉先生や澤内先生、郭先生をはじめ、北海道大学や北海道教育大学、北海学園大学の先生方、さらに行政、不動産開発会社、空港運営会社、旅行会社、コンサルタント、ゼネコン、IT系会社、プロ野球球団、NPOなど多様なメンバーが知見を持ち寄り議論します。課題先進国とも言える北海道を対象に、国際的な視野から考え、ローカルで実現できるあり方と手法について検討する「知のコモンズ」を目指し、議論を始めています。

15

16

17

マーケターを招いたセミナー開催

2023年10月24日、商学科の澤内ゼミにフュージョン株式会社ビジネスグロース室の三浦久恵室長をお招きし、セミナーを行いました。フュージョン株式会社は札幌に拠点を置くマーケティング専門の企業です。セミナーでは、新聞や公表されている資料の情報をもとに、北海道日本ハムファイターズの本拠地移転をマーケティングの視点から解説していただきました。身近な内容を題材に問題解決のプロセスをわかりやすくご報告いただきました。

報告後には、講演内容や普段の業務内容などについて学生から多くの質問が出ました。また、セミナー後には学生から「マーケティングは講義で習っていたが、実際の仕事の話を伺えてとても興味がわいた」などの感想が出てきました。就活時にマーケティング業務を志望する学生が多く、最前線で活躍される方のお話はとても刺激的だったようです。貴重な機会をいただいた三浦室長およびフュージョン株式会社の皆様に感謝申し上げます。
(澤内 大輔)



フュージョン株式会社ビジネスグロース室三浦久恵室長による講演に、ゼミ生のほか多くの学生が聴講



郭セミナーの皆さん

フィールドワークの地図作り

郭先生は中国からの留学生として本校で博士号を取得。2022年4月、本校講師に着任したばかりです。郭ゼミでは、身近な北海道観光に目を向け、関心を持った市町村の公的文書などを読み込み、観光への取り組みを調査することを最終目標にしています。

2年次後期（第4セメスター）と3年次後期（第6セメスター）では、前段階としてフィールドワークとグループワーク、発表の練習を兼ねた調査が行われました。その名も「学園前さんぽ」。大学のまわりを自由に散策して気になったものの写真を撮り、その場所を地図に落とし込んで、写真とコメントを書き込んだカードを貼っていきます。ゼミのメンバーは2年生10名と3年生10名の20名で、いくつかのグループに分かれて学園前駅の周辺を歩きました。

「気になる」というのは良い意味ばかりではなく、「嫌だな」「不便だな」などマイナスの印象も含まれます。これは一般の人の目線で景観を評価する手法で、街路やテーマパークなどの評価にも使われています。それぞれ同じエリアを歩いているはずなのに、まったく違うことに目を向けているのがわかります。みなさんは「同じものを見ても感想がみんな全然違ったね」「歩いているだけで面白かった」などと話しながらカードを切り貼りして

「気になる」というのは良い意味ばかりではなく、「嫌だな」「不便だな」などマイナスの印象も含まれます。これは一般の人の目線で景観を評価する手法で、街路やテーマパークなどの評価にも使われています。それぞれ同じエリアを歩いているはずなのに、まったく違うことに目を向けているのがわかります。みなさんは「同じものを見ても感想がみんな全然違ったね」「歩いているだけで面白かった」などと話しながらカードを切り貼りして

「気になる」というのは良い意味ばかりではなく、「嫌だな」「不便だな」などマイナスの印象も含まれます。これは一般の人の目線で景観を評価する手法で、街路やテーマパークなどの評価にも使われています。それぞれ同じエリアを歩いているはずなのに、まったく違うことに目を向けているのがわかります。みなさんは「同じものを見ても感想がみんな全然違ったね」「歩いているだけで面白かった」などと話しながらカードを切り貼りして

郭先生は中国からの留学生として本校で博士号を取得。2022年4月、本校講師に着任したばかりです。郭ゼミでは、身近な北海道観光に目を向け、関心を持った市町村の公的文書などを読み込み、観光への取り組みを調査することを最終目標にしています。

2年次後期（第4セメスター）と3年次後期（第6セメスター）では、前段階としてフィールドワークとグループワーク、発表の練習を兼ねた調査が行われました。その名も「学園前さんぽ」。大学のまわりを自由に散策して気になったものの写真を撮り、その場所を地図に落とし込んで、写真とコメントを書き込んだカードを貼っていきます。ゼミのメンバーは2年生10名と3年生10名の20名で、いくつかのグループに分かれて学園前駅の周辺を歩きました。

「気になる」というのは良い意味ばかりではなく、「嫌だな」「不便だな」などマイナスの印象も含まれます。これは一般の人の目線で景観を評価する手法で、街路やテーマパークなどの評価にも使われています。それぞれ同じエリアを歩いているはずなのに、まったく違うことに目を向けているのがわかります。みなさんは「同じものを見ても感想がみんな全然違ったね」「歩いているだけで面白かった」などと話しながらカードを切り貼りして



グループワークの発表



ゼミ訪問

郭 倩 講師 ● 観光研究ゼミナール

観光産業学科の2年次、4年次に開講している「観光研究ゼミナール」。郭先生の「ゼミナール」「ゼミナールIII」では、若者の旅行先が海外から国内中心へと変化しつつある背景を踏まえながら、北海道の観光資源の再発見と、自身の観光活動について考えを深めることを目指しています。

いました。

ある程度地図が出来上がったところで、グループごとに成果を発表。飲食店に注目したユニークな発表や、ポイ捨てのタバコやゴミについて取り上げるなど、「普段は気にならないのに、こうして歩くと

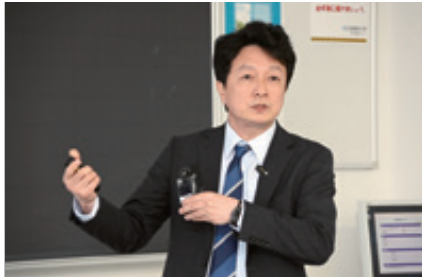
目につく」という感想を持ったようです。また、2年生の上田美咲さん、3年生の菅原花菜さん、井上優那さんの3人が取り上げたのは、なんと電線です。「電線が木にぶつかっているのが気になりました。すすきのには電線がない場所があるので、そうしたほうがスッキリするのに、とみんなで話していました。そして「ふだん街を歩いても疑問に思ったことがなかったけれど、今回の街歩きでは気づきがあった」と言います。

とくに3年生の2人は2年次から郭ゼミを選択していて、「先生は深掘りしてグイグイ質問してくるので、自分の考えを言う力がついてきました」と話してくれました。たしかに郭先生は発表に対して「なぜ?」「どうして?」「とくさんの質問を浴びせます。これは、郭先生がゼミで意識して行っていること。「発想はできても、アウトプットできない学生が多いと感じています。今回のように地図を作るなどアクションを入れた作業をすることによって、自分の考えをアウトプットさせるようにしています」。すると、自分の考えをなかなか説明できなかった学生も、だんだん言えるようになっていきます。

アウトプットに慣れるために、授業の前に毎回行っているのが自分の旅の思い出について語る。2名ずつ発表者を決め、写真を見せながらみんなの前で話してもらいます。「アウトプットの仕方を学ぶとともに、観光産業学科として旅を好きになつてほしい。人はみな旅をするもの。そして旅は、普段は気づかない問題点に気づくことにもつながります」と郭先生。身近な場所を歩くことを旅の入り口として、広い世界へ目を向けたときに発見できることがたくさんありそうです。

多文化関係学会北海道・東北地区研究会を開催

10月7日（土）に本学において2023年度 多文化関係学会北海道・東北地区研究会を開催しました。多文化関係学会は日本学術会議協力学術研究団体の中の一つであり、多様な文化の相互作用およびその関係性を、多面的かつ動的に研究する学会です。今回は、今年度から北海道・東北地区研究会委員長を務める李鳳准教授の企画・司会のもと、崔 碩鎮先生（北海道大学公共政策大学院附属公共政策学研究センター研究員、本学非常勤講師）をお招きし、「戦後韓国における政治文化と政治体制に関して：日本と比較を中心に」というテーマでご講演いただき、活発な議論が行われました。ハイフレックス型（対面+オンライン）で実施されましたが、道内のみならず日本各地から韓国、中国、モンゴルなど海外から研究者、学生、一般の方々にご参加いただき、盛会のうちに終了しました。改めて心からお礼申し上げます。（李 鳳）



上段：崔先生と参加者の議論。写真下左から：研究会終了後の集合写真。崔先生に質問をする参加者。崔先生による講演

市民公開講座 4年ぶりに開催される

2023年年度北海商科大学市民公開講座が11月11日(土)に開催されました。コロナ禍の影響で4年ぶりの開催となりました。講座タイトルは「現在(いま)の北海道北海道の将来(あす)～広大な北海道の人流と物流～」で、本学の元教授の加藤由紀子先生と現教授の相浦宣徳先生が講義されました。司会は伊藤昭男先生でした。

加藤由紀子先生は「やっぱ、北海道っしょ！ 旅する北海道民が支える北海道観光」という題目で、コロナ禍における行動制限で移動が制限されている中でも、常に北海道の観光消費は道民によって支えられていたことなどが紹介されました。また、道民の旅行先、これからの北海道観光について、最新の研究成果をご紹介いただきました。そして、旅は自分のいる地域を知ることであり、これからはいろいろな切り口で道民が北海道を楽しんでいくことが、今後の北海道観光を支えることに繋がることを強調されました。次ぐ、相浦宣徳先生は「そして、もう一つの『トラック輸送力不足』～モノの流れが支える北海道の暮らしと経済～」という題目で、昨今の北海道物流における課題と影響について、トラック輸送、貨物鉄道輸送、船舶輸送、各々の課題とそれらが相乗し、北海道で生活する皆様への影響を示しました。

4年ぶりの開催ということで、参加者が集まるか否か懸念しておりましたが、満員御礼での開催となり、会場の皆様からも多くの質問をいただきました。ご参加くださった皆様に感謝申し上げます。次回は来年度の秋に開催する予定です。皆様のご参加をお待ちしております。（学術発展センター長 相浦 宣徳）



写真上：講義を行う相浦宣徳教授。
写真下左は加藤由紀子元教授と右は相浦宣徳教授

18

19

20

● 株式会社 アインファーマシーズ 物販事業部 販売一部 販売二課

松浦 隼人さん

[2013 (平成25) 年 商学部観光産業学科卒業]

O B・OG NOW!

2013年卒業してから、早くも10年たちます。大学時代を振り返ると、様々なトキを過ごし、様々なヒトと出会い、様々なコトに取り組み、本当に充実した4年間でした。

一番印象に残ったトキは、1年生と3年生のころ、中国での留学生活です。1回目の交換留学では、初めてクラスメイトとの共同生活を経験し、笑ったりはしゃいだり、本当に楽しい時間でした。2回目の長期留学では、毎日早朝から自習するために図書館の前に並ぶ中国人学生の列を見て、彼らの努力ぶりを身近に感じて、自分自身の意識も変化が起きました。また、中国の日進月歩で凄まじい経済発展にも感心しました。経済成長の一側面として、留学先の大学売店のカップメンが年に二、三回も値上げになったことには、本当に驚きました。一番印象に残ったヒトは、大学時代にご指導いただいた西川先生です。西川先生の中国政治経済の講義では、自分で「人民公社」について調べてレポート報告を行いました。講評では、いつも学生に厳しい西川先生に褒めていただいたことを鮮明に覚えています。また、西川先生と一緒に中国内モンゴルへ植林活動に参加したこともよく覚えています。西



写真上左：留学先の大学の図書館前の学生たち。写真上右：内モンゴル植林活動、エンゲペー砂漠で記念写真。写真下：留学生との交流



川先生の色々な話を聞いて、中国という大国に対して、「過去」から「現在」まで、立体的に「中国」という国を認識することができました。

一番印象に残ったコトは、留学中に中国西部に行った旅行です。留学先の山東を出発し、北京経由で西安にいき、兵馬俑を見学し、そこから洛陽を中継地にして成都を目指しました。一般列車を十何時間座って乗車したり、方言がわからず道に迷ったり、まだスマホもない時代にホテルや列車を調べたり、本当に大変でした。帰国後、この旅行をゼミで報告したときに、自分の成長を実感しました。

卒業後、(株)アインファーマシーズに入社し、現在も勤めています。入社後、東京で勤務した三年間はちょうど中国人のインバウンド観光が急成長した時期でした。中国語を活かして接客業務をこなし、お客様から「谢谢（ありがとう）」と言われた時に中国語を勉強して良かったと感じました。その後、新千歳空港に免税店を新設するために、北海道に戻ってきました。空港の店舗に勤務した時も、留学で培った外国人とのコミュニケーション能力が生かされました。現在は、店舗管理と運営の仕事を担当しています。大学時代に頑張ったこと、そして経験したことは今となって、社会人としての「糧」になりました。



写真：仕事風景（DUO店において）

学生へのメッセージ

阿部 秀明 教授

月日の経つのは早いもので、本学に勤務して38年、定年退職を目前にして色々な思い出が浮かんできます。何よりも嬉しいことは、毎年多くの学生と接し得たことは、まさに「教師冥利」といってよいでしょう。そんな経験知を通して、特に今日のコロナ後に広がる未来社会を切り拓くフロントランナーとしての学生諸君に三つのお願いをしたいと思います。

一つ目は、「健康に留意する」こと。コロナ禍を経験した皆さんだからこそ、最も大事であると実感しているはずです。二つ目は、「知的好奇心を持ち続けること」。そして三つ目は「夢を忘れない(未来への道標)」ことです。知的好奇心は創造力の源で、継続は力なりです。そして夢は生きていく上の道標です。どうか、これからも「知的好奇心」を失わず学び続け、様々なことに挑戦しながら自身の「夢」に突き進んでください。

最後に、おそらく皆さんは「コロナ世代」と呼ばれるようになるでしょう。多様な体験に対応する術を学ぶことが出来たと思います。きっと「コロナ世代は臨機応変な対応ができる」と呼ばれる世代となると期待しています。



大友 秀人 教授

サザエさんの波平さんの設定年齢が54歳、歌手の福山雅治さんと同じです。皆さんはこの「ギャップ」をどうとらえますか。さて、高校教員20年、大学教員23年と教員人生を北海商科で終えることになりました。皆さんには大変お世話になりました。皆さんと言っても、私を知っているのは、教職課程（教育心理学等）を担当していたので、教職課程の学生と社会文化ゼミでのキャリアでの学生ですが・。「退職」はしますが、やりたいことがいくつもあるので、「前進」するために「今の体力・気力を10年後まで維持」を今年のテーマとしました。大学教員になった時に、心理学博士の指導をいただいた恩師から「大友、大事なことは、年齢ではなく、やりたいことがあるかどうかだ」と言われたことが、今の私の一つの原動力になっています。皆さんにもそのままこの言葉を差し上げます。心の「ギャップ」（発達課題）を乗り越えて、学生生活を楽しんでください。



大柳 幸彦 教授 「Both Sides, Now」

3年間という短い期間でしたが、貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。パンデミックである新型コロナウイルス感染症により、1年目は遠隔授業、2年目は遠隔授業と対面授業のハイブリッド型授業、3年目は対面授業を学生の皆さんと一緒に経験しました。観光情報学において、観光危機管理上エビデミックは比較的コントロールしやすい現象ということで講義をしましたが、パンデミックはそもそも起こり得る状況としては想定しておらず、結果的にコントロール不能な現象であり、観光産業を含め世界は大きなダメージを受けました。一方、企業においても、遠隔授業のようにリモートワークといった形態の働き方を経験し、必ずしも出社して仕事をしなくても良いことに気づきました。デジタル敗戦国と位置付けられている日本ですが、現在、リモートワーク環境整備なども含めDXが推進されており、皆さんが社会に出れば否応なくDXに巻き込まれます。コロナ禍を乗り越えた皆さんが新しい価値観の社会で活躍できることを祈念しています。



● 新刊紹介 ●



『中国社会主义经济建设史序論』
西川博史(本学元教授)著
2023年11月／現代史料出版



『高等学校 ICT活用で実現する
個別最適な学び・協働的な学び』
堂徳将人(本学学長)編著
2023年8月／学事出版

医務室から『二十代の健康』^⑩ 医務室 西川 葉子

『口腔ケアで免疫力アップ！！』

今年は早い時期からインフルエンザが流行していますが、体調など崩していませんか。毎日行っている歯磨きなどの口腔ケアは、風邪やインフルエンザなどの感染リスクを下げることがわかっています。

お口の中には細菌がたくさんいます。常在細菌といって、体を守る働きをする細菌もありますが、悪さをする細菌もあります。この悪さをする細菌を減らすことが大切です。細菌の塊であるプラークは、歯磨きをしないと落とすことはできません。口の中には、もう1つ細菌の塊があります。それは舌の表面につく汚れ、舌苔です。これらの細菌を口腔ケアにより減らすことで、口腔の免疫が十分に働くことができるようになるのです。

また、歯周病を放置し重症化してしまうと、歯周病原細菌は様々な酵素を口腔内にまき散らし、ウィルス感染を進めてしまうことから定期的な歯科検診もとても大事になります。

1. 歯磨き
歯ブラシだけでは口の中の汚れの60%しか落とせていないというデータがあります。残りの40%は歯間に残されているため歯間ブラシやデンタルフロスを併用しましょう。

2. 舌のケア
歯を磨くようにゴシゴシこすってしまうと、舌の表面を傷つけてしまいます。鏡を見ながら、舌ケア専用のブラシを使って奥から手前に汚れをかき出すように優しくケアしましょう。

3. 定期的な歯科検診
むし歯や痛みがある時だけでなく、定期的に検診を受けましょう。歯の磨き残しが多いところやお口のトラブルの有無を知ることができ、プロによるケアによりご自身で落としきれなかったプラークや歯石をしっかりと落としてもらうことができます。また歯磨き指導を受けることでより効果的なセルフケアにつながります。



21 22 23 24 25 高校生懸賞作文 第11回入賞者決定

2023年度本学主催（後援 北海道新聞社）「高校生懸賞作文」のコンテストを開催しました。今年は道内6市町村9つの高校から、過去最多の214篇の応募がありました。

高校生懸賞作文の趣旨は、高校生ならではの観察眼を生かして地域社会の観光資源を発掘し、さらにマーケティングに関心を持っていただくことです。2012年度から実施する懸賞作文は、本年度で11回目となり、本学の取り組みが少しずつ道内の高校生に認知されるようになっていきます。

厳正な審査の結果、表の通り9人の方々の入賞が決定しました。



（入試広報センター 郭 倩）

入賞者〔敬称略〕			
賞	氏名	高校名・学年	テーマ
1位	藤澤 香椎	旭川実業高等学校3年	グルメ
	石岡 優	北海道福島商業高等学校2年	観光スポット
	竹原 ゆず	北海道江別高等学校3年	お土産
2位	宮川 翔太	北海道江別高等学校3年	観光スポット
	蝦名 愛月	市立札幌啓北商業高等学校3年	グルメ
	丸山 大成	北海道江別高等学校3年	グルメ
3位	松尾 琉斗	市立札幌啓北商業高等学校3年	観光スポット
	金曾 健志郎	帯広北高等学校3年	グルメ
	渡辺 稀咲良	星槎国際高等学校帯広学習センター3年	お土産

行事予定表（2023年12月12日現在）

12/15 ^金	総合型選抜(Ⅱ期)会場設営日 学校推薦型選抜(併設校)会場設営日	2/21 ^金	一般選抜合格発表 大学入学共通テスト利用選抜(Ⅰ期)合格発表
12/17 ^日	総合型選抜(Ⅱ期)試験日 学校推薦型選抜(併設校)試験日	2/26 ^月 ～3/1 ^金	合同企業セミナー
12/22 ^金	総合型選抜(Ⅱ期)合格発表 学校推薦型選抜(併設校)合格発表	3/1 ^金	卒業生発表
12/27 ^金	冬季休業開始	3/9 ^土	後期修学指導面談(卒業延期者)
2024/1/8 ^日	冬季休業終了	3/12 ^火	大学入学共通テスト利用選抜(Ⅱ期)合格発表
1/10 ^火	講義再開	3/18 ^月	卒業証書・学位記授与式／卒業生を送る会
1/12 ^金	卒業論文提出期限	3/21 ^木	学年末休業終了
1/13 ^{土・14^日}	大学入学共通テスト試験日	3/22 ^金	各センターガイダンス
1/19 ^金 ～31 ^金	授業評価アンケート実施		オープンキャンパス会場設営日
1/31 ^金	振替講義日(木曜日)・後期講義終了	3/24 ^日	オープンキャンパス
2/1 ^火	学年末休業開始	3/25 ^月	次年度前期・新2年次履修相談/登録日/後期修学指導面談(成績不振者)
2/3 ^水	後期・成績開示	3/26 ^火	次年度前期・新3年次履修相談/登録日/後期修学指導面談(成績不振者)
2/6 ^金 ～13 ^金	後期・成績異議申し立て受付	3/27 ^水	次年度前期・新4年次履修相談/登録日/後期修学指導面談(成績不振者)
2/7 ^火	一般選抜会場設営日	3/28 ^木	全学年履修登録訂正日
2/8 ^水	一般選抜(2月8日試験)試験日		
2/13 ^火	一般選抜(2月13日試験)試験日		